

## 1. 指導農業士さんに新規就農者の指導をお願いします！

『指導農業士』は、現在日野管内に6名いらっしゃいます。主に、農業経営や後継者育成指導のスキルアップを図ったり、県の行政職員と意見交換を行い、農政についての提言なども行っています。

日野郡管内では新規就農者が増えており、普及所は指導農業士の皆さんと一緒に支援をしていきたいと考えています。若い農業者の育成や地域農業振興について助言・提言をいただいています。

町名	氏名	経営作目
日南町	坪倉勝幸	水稲、ソバ、作業受託ほか
	池田尚弘	トマト、水稲、ソバ
	近藤仁志 (法人役員)	水稲、ピーマン、
	岩田 正	水稲、トマト、作業受託ほか
日野町	松本洋一	水稲、作業受託
江府町	遠藤 功	水稲、ソバ



【担当：渡辺】

## 2. 野菜の振興

平成 26 年産米概算金の低下が明らかになり、担い手農家からは「これではやっていけない、再生産には1俵1万2千円は必要、直接支払交付金は1万5千円に戻すべきだ」等不安の声が寄せられています。県議会でも議論されており、県は国に対し、米の需給調整は国の責務であり、米価安定施策を強く要望しているところです。

普及所は日野郡筆頭品目である米のさらなるブランドアップ、販路拡大の支援を強化する一方、白ねぎ、ブロッコリー等鳥取西部特産野菜の振興を図りたいと考えます。

日野郡の夏ねぎ、秋冬ねぎは市場の評価が高く、増産を求められています。

ブロッコリーも夏涼しい日野郡の特長を生かした出荷を期待されています。

普及所では日野郡に合った作型、栽培方法をできるだけ早く皆様に提示できるよう検討を始めました。米のウエイトを減らさざる得ないとお考えの方はぜひ検討をお願いします。



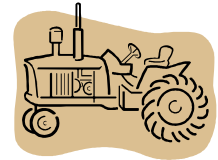
【担当：高口】

(お問合せ)日野農業改良普及所 電話:0859-72-2024 FAX:0859-72-2090

(新規就農)渡辺(6次産業化)木下(作物)石倉、金川(野菜)小谷(畜産)米村(花卉)福本(果樹)高濱

※この「かわら版」は隔月発行予定です。日野農業改良普及所HPよりからも閲覧出来ます。

### 3. 人と農地に関する話合いをしませんか？



平成 26 年度より農地中間管理事業が開始し、これまで以上に農地の流動化、担い手への集積が進むと思われます。

当普及所では、郡内 3 町と連携しながら、集落単位などで“人と農地に関する話合い”を進めています。特に、日南町では既に延べ 20 集落以上で話合いの場を設けてきました。

集落毎に悩みが異なり「集落営農で踏ん張る！」、「地域の担い手に農地を出す」と言った声もあれば「後継者もなく、先行き不透明」という声もありました。

先祖代々引き継いできた農地を、今後どうするか、地域農業が少しでも長く続くためにはどういうことが考えられるか、農業をリタイアするにあたり利用できる制度があるかなど、皆さんとの意見交換を通じて一緒に考えさせてください。

是非とも普及所或いは最寄の農業委員会にお声かけください。



【担当：石倉、金川】

### 4. トマトの高接ぎ試験結果について(普及実証ほ)

トマトの青枯病対策として、“土壤消毒(バスアミド微粒剤)”と“高接ぎ苗”の組み合わせによる対策を実施したところ、本年の青枯病の発生は全く認められませんでした。去年は、通常の接ぎ木苗では 6%の発病率でしたので、高接ぎと土壤消毒の組み合わせが非常に有効であることが実証されました。

しかし、高接ぎ苗を供給できる育苗業者が県内に無いことや、接ぎ位置が高すぎるために作業性や生育がやや劣ることが課題です。今後は、日南町内での苗生産者による試作や、高接ぎ位置をもっと低くした場合の防除効果の

検討などを考えています。これらの課題解決に努め普及できる技術確立を目指します。



【担当：小谷】



普及所長  
高口



新規就農担当 渡辺



畜産担当 米村



水田作物担当 石倉



花卉担当 福本(広域)



6次産業化担当 木下



野菜担当 小谷



水田作物担当 金川



果樹担当 高濱(広域)